

司式:長原 光
奏楽:山田絵里

前奏:父なる神よ、我らのもとに留まり給え (J. パッヘルベル)

招詞:神の家とは、真理の柱であり土台である生ける神の教会です。(1テモ 3:15b)

讃美歌:12「とうときわが神」

交読詩編 24:1-6

- 01 【ダビデの詩。賛歌。】地とそこに満ちるもの/世界とそこに住むものは、主のもの。
- 02 主は、大海の上に地の基を置き/潮の流れの上に世界を築かれた。
- 03 どのような人が、主の山に上り/聖所に立つことができるのか。
- 04 それは、潔白な手と清い心をもつ人。むなししいものに魂を奪われることなく/欺くものによって誓うことをしない人。
- 05 主はそのような人を祝福し/救いの神は恵みをお与えになる。
- 06 それは主を求め人/ヤコブの神よ、御顔を求め人。〔セラ

朗読聖書①:イザヤ書 51:1-8

◆シオンへの帰還

- 01 わたしに聞け、正しさを求める人/主を求め人よ。あなたたちが切り出されてきた元の岩/掘り出された岩穴に目を注げ。
- 02 あなたたちの父アブラハム/あなたたちを産んだ母サラに目を注げ。わたしはひとりであった彼を呼び/彼を祝福して子孫を増やした。
- 03 主はシオンを慰め/そのすべての廃墟を慰め/荒れ野をエデンの園とし/荒れ地を主の園とされる。そこには喜びと楽しみ、感謝の歌声が響く。
- 04 わたしの民よ、心してわたしに聞け。わたしの国よ、わたしに耳を向けよ。教えはわたしのもとから出る。わたしは瞬間に/わたしの裁きをすべての人の光として輝かす。
- 05 わたしの正義は近く、わたしの救いは現れ/わたしの腕は諸国の民を裁く。鳥々はわたしに望みをおき/わたしの腕を待ち望む。
- 06 天に向かって目を上げ/下に広がる地を見渡せ。天が煙のように消え、地が衣のように朽ち/地に住む者もまた、ぶよのように死に果せても/わたしの救いはとこしえに続き/わたしの恵みの業が絶えることはない。
- 07 わたしに聞け/正しさを知り、わたしの教えを心におく民よ。人に嘲られることを恐れるな。ののしられてもおののくな。
- 08 彼らはしみに食われる衣/虫に食い尽くされる羊毛にすぎない。わたしの恵みの業はとこしえに続き/わたしの救いは代々に永らえる。

朗読聖書②:マタイによる福音書 5:7-12

◆山上の説教を始める②

- 07 憐れみ深い人々は、幸いである、/その人たちは憐れみを受ける。
- 08 心の清い人々は、幸いである、/その人たちは神を見る。
- 09 平和を実現する人々は、幸いである、/その人たちは神の子と呼ばれる。
- 10 義のために迫害される人々は、幸いである、/天の国はその人たちのものである。
- 11 わたしのためにののしられ、迫害され、身に覚えのないことであらゆる悪口を浴びせられるとき、あなたがたは幸いである。
- 12 喜びなさい。大いに喜びなさい。天には大きな報いがある。あなたがたより前の預言者たちも、同じように迫害されたのである。』

祈祷

天地万物の造る主にして、永遠に支配し給う主イエス・キリストの父なる御神さま。今朝、あなたの招きにより、この場にて、またライブ配信

にて、あなたに感謝を献げ、聖名を褒め称える時をお与えくださり、感謝致します。

あなたは私たちの悲惨を、私たち以上に知り給うお方です。私たちはこの地上の歩みにおいて、注意深く歩いても多くの過ちを繰り返し犯し、あなたの御教えを踏み躪る日々を送っています。また、あなたのお示しくださる幸いを愚かにも受け止められずにいます。どうか頑ななこのような私たちをお赦し下さい。

しかし、主なる御神、あなたはこの地上に独り子、主イエス・キリストをお送りくださり、私たちと同じ地上の歩みを為さしめ、私たちの悲惨を見てくださいました。主イエス・キリストは私以上に私の罪をつぶさに見、あなたの贖いの血によってしか、これを救うことが出来ないことを示してくださいました。罪人として十字架につけられたイエス・キリストは、まさしく私の十字架を背負われたのです。この歴史上の転換点によって、私たちはあなたの限りない恩寵と、あなたの支配為せる時を知ることが出来ました。感謝申し上げます。私たちは誕生から死まで私たちの時間を過ごしているではありません。あなたの時を生きているのです。死から始まる命を生きています。真にあなたは恵み深くその慈しみは永久に絶えることがないお方です。この恩寵の内に私たちは新しく造り変えられた人間として、あなたに感謝と賛美を献げ、歩むことが許されています。どうか私たちの新しい歩みを祝福し導いてください。

全世界には戦争や災害が相次いで起こり、多くの命が失われています。私たちの知らない悲しい出来事も数多くあることでしょう。悲しみだけではなく絶望や虚無や憎しみや怒りなど、負の感情も私たちの想像を超えるばかりです。どうか主なる御神さま、あなたの平安が全世界に充ちることをお祈り致します。特にあなたの聖名のために、苦難を強いられる方々を励まし導いてください。どうか政治や社会を司る責任ある立場の人たちがあなたの御旨を知り正しい判断ができますように導いてください。再びイエスさまが来ますその時まで、どうか私たちを、平和を実現する器としてお用い下さいますように。

今朝、私たちは聖霊降臨節第 11 主日礼拝をあなたに献げようとしております。あなた自らがこの礼拝をお導き下さい。説教者である佃雅之先生に聖霊を注ぎ、御国の消息を充分にお語り下さいますようにお導き下さい。聴く私たちの耳を開いて、語られる御言葉を信実にあなたの御声として聴くことが出来ますように。

病やご高齢のために、また様々な事情でここに集い得ない兄弟姉妹を覚えます。あなたがその一人ひとりのところにおいでくださり、私たちと変わらぬ恵みの賜物で満たして下さいますように。どうかこの礼拝が、私たちの一巡りの糧となりますように。

このお祈りを主イエス・キリストの聖名によって御前にお献げいたします。アーメン。

讃美歌:408「この世のもので」

説教「本当の幸い」

佃 雅之

マタイの福音書に記されています『山上の説教』を読み進めています。キリストは今日朗読されました7節までに、“心の貧しい人、悲しむ人、柔和な人、義に飢え乾く人は幸いである。”“幸せだ”と仰いました。主なる神は私たちが幸

せに生きて欲しくて仕方がないのであります。私たち一人ひとりに祝福を与えたい、幸いを与えたくて仕方がないのです。そのために、今日も私たちを呼び集めてくださり、祝福を語ってくださいます。前回にも話しましたが、山上の説教の冒頭に置かれています“幸いの教えは、前半と後半に分けることができる”と言われます。今日読みました7節からが後半です。6節までは、“神と人間との関係、人間が取るべき態度”について語られていましたが、7節からは“人との関係も含まれる幸い”です。

キリストは言われます。「憐れみ深い人々は、幸いである、その人たちは憐れみを受ける。」「憐れみ深い人」とは、どのような人でしょう。“神の憐れみをただ慕い求める人”です。つまり、“この時、キリストのもとに集められた人たち、今日の私たち”のことでしょう。神の愛による憐れみに拠らなければ神の恵みに生きることが出来ません。主に拠り頼むことを知らない人は、自分の知恵であるとか、自分の誠実さとか、自分の持っている何かで幸せに生きようとしています。自分の努力や力だけで幸せになろうとします。しかし人間には必ず限界があります。

また“憐れみ深い人は、キリストにおいて神の無限の赦しを経験した人だ”とも言われます。自分がどれほど罪深く情けない人間なのか、憐れみに欠けた人間なのかということ、キリストの愛に触れて知ることが出来た人です。キリストが語られる「憐れみ深い人々」というのは、“キリストの憐れみ深さを知っている人、その憐れみを戴いて生きていることを自覚している人”です。

「憐れみ」という言葉は聖書によく出てくる言葉です。新約聖書の書かれたギリシャ語には、「憐れみ」と訳すことの出来る言葉が幾つもあります。キリストの憐れみ深さは、盲人や悪霊に取りつかれた人たちの願いや叫びに応えてくださることで発揮されます。しかし今日の個所で使われています「憐れみ深い」との言葉は、新約聖書ではたった2回しか使われていません。《形容詞「エレエモン」(ἐλεήμων)複数形「エレエモネス」(ἐλεήμονες)、「主、主、憐れみ深く(「ラファム」ロカム)、恵みに富む神(出 34:6)》今日の箇所と、もう1箇所は「ヘブライ人への手紙 2:17」です。ここには、民の罪を償うためにキリストが来てくださったことが書かれていますから、「憐れみ深い」という言葉には、“その人の罪を共に担う、罪をも引き受けて贖ってくださる”という意味が含まれています。“私たちは、主の憐れみによって、この一週間をどのように生きたのか、キリストから注がれた憐れみを、私たちは隣人に注ぐことが出来たでしょうか？”そのことが、今、私たちにも問われています。“あなた方の父が憐れみ深いように、あなた方も憐れみ深い者となりなさい。”これがキリストのメッセージです。

しかし私たちは時に、自分の知恵を働かせて、考え主張し、正義を論じます。その時私たちは、往々にして隣人への憐れみを忘れてしまいます。或る人や或る行為を非難することは簡単なことです。その時の私たちは、その人から遠く離れた安全な場所で判断を降します。その人の立場に立ち、その人と同じような誘惑や苦悩を知り尽くそうとはしません。しかし神はキリストにおいて、私たちと同じ立場に立ってください、私たちの思い、弱さをもって物事を考え感じ取りました。「憐れみ」というのは、その人の心に寄り添って感じる事の出来る力です。私たちが「憐れみ深い」者となるためには、もっと神を見るようにならなければなりません。

8節に“どういう人が神を見る事が出来るのか”が示されています。「心の清い人々は、幸いである、その人たちは神を見る。」とあります。神を見る事の出来る「心の清い人」とはどのような人でしょうか。その意味を鮮明にするために今日の交読で詩編 24 篇を読みました。

03 どのような人が、主の山に上り、聖所に立つことができるのか。

04 それは、潔白な手と清い心をもつ人。むなししいものに魂を奪われることなく、欺くものによって誓うことをしない人。

05 主はそのような人を祝福し、救いの神は恵みをお与えになる。とありました。

“心の清さ”とは、“偶像や欲望に惑わされることなく、主なる神に仕えること。主なる神に自らを献げることだ”と率直に語られています。私たちに心が純粋であるとか、誠実であるとか、そのような心の質も大切なことですが、まず問われていることは、“心の向き”であります。何に心が向いているのか、私たちの心の方向こそが“心の清さ”と深く関わっています。ですから人の目に映る外見的に行為が申し分なく正しくても、事細かに掙の一つ一つを守っても、その心が神に向いていなければ“清い人”と呼ぶことは出来ません。

「心の清い人々」に、「神を見る」ことが約束されているということは、“神を見る事が許されない人々がいる”ということにも、私たちは気付かなくてはなりません。日曜日毎に教会に行く、聖書を読み、知的な言葉を幾つも知っている、いつも謙虚な言葉使いで誰とでも笑顔で挨拶を交わしている、それは大切なことです。私たちならその人を立派なクリスチャンであると考えられるかも知れません。しかし“清い”というのとは“人の目に映る外見的な行為ではなく、心の思い、魂の態度”のことです。神は心を見ておられます。

私たちにおいても同様です。私たちにおいても神は心で見えるものであります。肉の目で神を見ようとする事が不可能であることは旧約聖書に語り尽くされています。「神を見る」とは、“十分に神を知り、神と親密な交わりの中に入る”ことを意味しています。「その人たちは神を見る」というのは、“真剣に神を待つ者に神が近づいてくださることを約束する言葉”です。

7 番目の祝福の言葉、「平和を実現する人々は、幸いである」との主の言葉を聴くとき、私たちは複雑な思いを抱かざるを得ないと思います。今もウクライナで、ガザで戦闘が続いています。世界情勢のことだけではありません。私たちの家庭は、私たちの教会は「平和」でしょうか。喜び、思いやり、協力、赦し、温かさで満ちているでしょうか。失敗を責める言葉、無関心、不満、諦め、言い争いが繰り返されてはいないでしょうか。

聖書では「平和」を考える時、“神と人との平和”と、“神の下にある人と人との平和”、この二つのことを考えます。“この二つの関係が一つに結び付いて「平和」が「実現する」と聖書は教えます。“真の平和は、神と人間との縦の関係と、人と人との横の関係が十字架のように一つに結び付いたとき「実現する」のです。この祝福の最も重要な一つのこと、祝福を約束されている人々が「平和を実現する人」、つまり“平和を創り出す人たちである”と言われている点です。

例えば、自分の家族、自分の属している教会に問題があって、改革し改善しなければならぬことがあるとします。当然、必要なことを発言し、行動を起こさなければなりません。しかしその為に一步踏み出そうとすれば愉快でないことが起こります。面倒なことに直面します。私たちは面倒なこと、まして対立することを好みませんから、平和のために沈黙することを選ぶかもしれません。何かをしたり、何かを言ったりしないと心に決めます。一般的にこのような人は、穏やかな人、平和を愛する人、協調性があるなどと言われます。しかしその人は平和を創り出す人ではないことは確かです。結果、問題や疑問を抱えたまま悪い状況を継続させてしまうからです。どのような国も、家族も教会も、問題を放置しておくなら改

革、改善が難しくなり、挙句の果てには取り返しのつかないことになるでしょう。

キリストの語る平和は見せかけの平和ではありません。祝福される人たちは「平和を創り出す」ために必要とするあらゆることに進んで労苦し、自ら犠牲を払う覚悟のある人です。「平和を実現する人」というのは、「キリストに倣い、キリストに従う人」のことです。私たちが夫々の力に応じて「平和を創り出す」ために努力をするとき、平和の神の支配に参与することになります。

続けてキリストは「義のために迫害される人々は、幸いである、天の国はその人たちのもの」だと言われました。キリストの弟子として人生を貫こうとするとき、どのような出来事が起こるのでしょうか。「のしられ、迫害され、身に覚えのないことであらゆる悪口を浴びせられる」という経験をすることになります。この世からの迫害は弟子の徴でもあります。神のため、神の「義のために迫害される」者と言うとき、キリストは旧約時代の預言者たちを思います。今朝はイザヤ書51章の初めのところを読みました。イザヤに主が語り掛けます。

「わたしに聞け、正しさを求める人、主を尋ね求める人よ。」「わたしに聞け」という言葉がこの8節の間に3度(1,4,7節)繰り返されます。「なぜ執拗にわたしに聞け」と言われるのでしょうか。イザヤも義のために迫害された人であるからです。神の言葉を伝える度に、人に罵られ嘲られたのがイザヤです。

主はこの個所で、「あなたたちが切り出されてきた元の岩、掘り出された岩穴に目を注げ」と語られます。「切り出された」所には何も残っていないのですから空っぽです。「掘り出された岩穴」も同じでしょう。イザヤは預言者として神を「尋ね求めて」行きました。神の義のために生きたのがイザヤです。「主の言葉を伝えるために生涯を献げ、全力を注いできた。しかしその結果は空っぽ、ぼっかりと穴が開いているだけです。主の言葉に生きること、主の言葉を伝えることに生涯を献げることは空しいことではないか」、イザヤの実感です。自分の生涯を、その活動を振り返るなら、ぼっかり空いた穴、空っぽの跡が残されているだけなのです。しかし主は、「わたしに聞け」と繰り返されます。その空っぽの跡、ぼっかり空いた「岩穴に目を注げ」と、その虚しさの先にある目には見えないものに「目を注げ」ということです。

空っぽの「岩穴」の先に見えるものは何でしょうか。2節「あなたたちの父アブラハム、あなたたちを産んだ母サラに目を注げ。わたしはひとりであった彼を呼び、彼を祝福して子孫を増やした。」アブラハムは『信仰の父』です。彼は、ただ神の言葉を信じて旅立ちました。アブラハムが行き先も分からずに旅立ったとき、主はこう言われました。創世記12章の2-3節です。「わたしはあなたを大いなる国民にし、あなたを祝福し、あなたの名を高める、祝福の源となるように。・・地上の民(氏族)はすべて、あなたによって祝福に入る。」「たった一人のアブラハムへの祝福が、実はすべての民の祝福となる」、「祝福の源となる」と約束されたのです。イザヤは祝福されたアブラハムの生涯に目を注ぐことが、神の救いの歴史を新たに見ることだと気づかされました。「預言者としての活動がどれほど空しいように思っても、アブラハムのように義のために生きる、たとえ嘲られ罵られようとも、主のために生きることが祝福された人生である」と信じたのです。私たちなら「キリストを見る」ことです。

福音書記者マタイが山上の説教の冒頭に書き記した「心の貧しい人、悲しむ人、柔和な人、義に飢え渴く人、憐み深い人、心の清い人、平和を実現する人、義のために迫害される人」、これは主イエス・キリストのことです。この「キリストを見る、キリストに聞く、キリストを信じ、倣い、生きる」ことです。キリストに従って生きようとすることは、困難を引き受ける覚悟と、困難に耐える忍耐が

必要とされます。しかし「キリストを信じて生き抜いた者には大きな報いがある」と約束されています。

神に喜んでいただける人生を送ることが私たちに出来たら本当に幸いな人生です。大いに喜ぶべき人生です。今日もキリストは山上から「わたしのもとに集まったあなた方は幸いだ。わたしはあなたがたを愛する」と語り掛けてくださっています。

お祈りを致します。

聖なる神、キリストによって祝福された人生の中に私たちが置かれています幸いを感謝致します。この幸いを、私たちが多くの人たちと分かち合うことが出来ますように。御言葉に支えられて私たちが困難にも耐え、大いに喜んで信仰生活を全うできるように聖霊が導いてください。そのために私たちの口から喜びの賛美が湧き起りますように私たちが造り変えてください。

この地上に、私たちの間に、あなたの平和が実現しますように。主の聖名によって祈ります。アーメン。

讃美歌:534「キリストの使者たちよ」

献金・感謝の祈り(千住由美子)・主の祈り

父なる神さま、今日もこの礼拝堂で、またオンラインを通して、主にある兄弟姉妹と共に礼拝をお献げすることが許されましたことを感謝致します。

説教を通して命の御言葉を賜いました。私たちが真実に憐れみ深く清く平和を創り出し、義のために迫害された主イエス・キリストに倣う者として、励みあって歩むことが、そして隣人^{となりびと}と共に歩むことが出来ますように、どうぞ助けてください。

私たちは必要な物を与えられ生きることが許されています。夫々が与えられました物の中から神さまへの感謝と献身の徴として御前にお献げ致します。清めて、神さまのご用のために用いてください。

主が教えてくださいました「主の祈り」を共に祈り、新しい週を迎えさせてください。「主の祈り」…アーメン。

派遣・讃美歌 92「主よ、わたしたちの主よ」

祝福・主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように。アーメン。

報告:(週報記載外)中標津ゴーダチーズ9個、塩蔵わかめ6袋の購入要請

後奏:これぞ聖なる十戒 (J.S.バッハ)